

2020 年度事業 進捗報告書(資金分配団体)

- 提出日：2022年11月1日
- 事業名：子ども若者が主体の持続可能な地域づくり～もう一度、地元の力でできることを探そう
- 資金分配団体：認定NPO法人北海道NPOファンド

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
本事業において設定した社会課題解決のための協議会を構成する	協議会数	3	2021年 3月	3団体確認。形成途上	2
協議会が実施する小学生/中学生向け事業プログラムに子ども達が参加する	プログラム数 参加者数	2回/年 実行団体ごとに設定	2023年 3月	本事業の比重が高校生以上に移っており、指標について考慮の必要がある。2団体は、対象年齢が参加するプログラムを実施。	2
協議会が実施する高校生向け事業プログラムに子ども達が参加する	プログラム数 参加者数	2回/年 実行団体ごとに設定	2023年 3月	実施の困難はあったが、3団体とも実施している。	2

	事務局体制 など			て実行団体と検討して いる。	
実行団体の活動の政策提言・行政等資金の調達ルートができる	行政等資金の調達額	実行団体ごとに設定	2024年 3月	いきたすが、企業版ふるさと納税を活用して事業資金を調達した。	3
実行団体の活動の波及先地域が見つかる	波及先地域数	実行団体ごとに設定	2024年 3月	当会21年度事業の3団体との間で、また20年度実行団体との間で相乗効果、波及が生まれる期待がある。	3

*進捗状況:1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A:変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> アウトカムの目標値

5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

実行団体への訪問数は極力減らした。

6. 実行団体の進捗に関する報告

2022年1月と9月の研修を経て、本事業の特徴である地域の関係者を交えた協議会(連携体制)づくりのイメージが各団体において比較的明確になり、その面での活動方針が定まってきたと見受けられる。地域の担い手を輩出するために、若者の主体性を引き出し、活躍の場を提供する活動は、実行3団体とも順調に行っているといえる。申請時の当会のアウトプット指標が、彼らの活動内容と合っていないのでそれがうまく表現できているか心配だ。

いきたすは、カタリバと探究の事業をしているが、探究の授業では、高校年代の若者たちが、テーマを決めない、制約のない中で、日常の中に課題、論題を見つけ発表している。一部の高校生たちは、札幌という都会においても自分の住む街への意識をみせていた。

十勝うらほろ樂舎は、高校のない町にあって、若い世代が中心となって、町外在住者と町内在住者が交流できる機会を企画している。

のこたべは、起業塾を実施し、高校生がフリーペーパー制作や、商品企画に関わり、地域の魅力を自ら見つけ出して、地元への意識を自然に醸成している。

アプローチはそれぞれ違うが、自分から考え、考えを形にすることを、野放しにせずに見守り、助言しながら実行できている。若者の主体性を引き出すことは本事業において第一のポイントであるが、それについては懸念はほとんどない。

次に、主体的になった若者が、地元であってやあるいは町外に出た後にも地元に関わり続けることができるか、そのときに協議会あるいは連携体制が重要になる。この点は、まだまだはっきりした形ができていないが、上述の通り、活動や地域に即した模索が始まっている。当会としてもそれを支援していきたい。主体性を受け止める仕組みを地元を持つことができれば、人口の社会減が起きたとしてもその「質」は明らかに異なるものとなる。

③ 広報(※任意)

1.メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

2022年2月に全国コミュニティ財団協会のyoutubeチャンネル「会長対談シリーズ」にて、同協会の山田会長と当会代表理事今野と理事高山が対談、休眠預金制度に言及。

<https://www.youtube.com/watch?v=4J4BgWSztA4>

2021年3月17日北海道新聞朝刊、水曜討論「コロナ禍の生活困窮者支援」にて当会理事のコメントが掲載された。休眠預金に言及。

●イベント開催等(シンポジウム、フォーラム等)

2022/11/6 日本ファンドレイジング協会 協働提案型ファンドレイジング専門コース(応用)にて胆振東部地震における基金造成、運用について話題提供

2022/8/9 2022年度 非営利法人研究学会北海道部会・国際公会計学会北海道部会・北日本会計研究会の合同部会・研究報告会において当会理事(高山)が、話題提供。テーマは、休眠預金活用等制度と北海道の活動事例。

2022年4月 北海道NPOサポートセンターと共催の「協働フォーラム」開催、実行団体2団体が登壇。

22年2021年度休眠預金事業公募期間においては、随時20年度事業に言及・紹介している

2.広報制作物等

21年度休眠預金事業ちらし

3.報告書等

特にありません

2020 年度事業 中間評価報告書(資金分配団体)

評価実施体制

内部/ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	研修設計、インタビュー、アドバイス	中谷美南子	フリー
内部	評価、取りまとめ	高山大祐	北海道 NPO ファンド
内部	点検	久保匠	北海道 NPO サポートセンター
内部	点検	河井とわ	コープさっぽろ
内部	点検	遠藤千尋	北海道 NPO ファンド

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える 変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
対象:子ども達、行政(教育委員会)、学校、先生、保護者 協議会の活動に価値を感じていること	子ども達、行政(教育委員会)、学校、先生、保護者の変化	子ども達、行政(教育委員会)、学校、先生、保護者が協議会の活動に価値を感じ、積極的にプログラムに参加、活動に参画している状態	年度ごとに確認	協議会への意識的参加者はまだ少ないので、実行団体以外のメンバーが意義を感じているかは難しい。実行団体の1つ十勝うらほろ楽舎は、地域の関係者を集めたワークショップをしている。

<p>対象:子ども達(小学生・中学生)</p> <p>・対象地域において、協議会の活動により地元に関心を持つ/愛着を感じる。</p> <p>・当該地域を自分の居場所と感じられ、居場所を守り、居心地よくしたい、あるいは漠然とそこのために何かしたいという姿勢が発現すること。</p>	<p>子ども達の変化</p>	<p>子ども達が、地元に関心を持つ/愛着を感じる</p> <p>子ども達が当該地域を自分の居場所と感じられ、居場所を守り、居心地よくしたい、あるいは漠然とそこのために何かしたいという姿勢が発現すること</p>	<p>年度ごとに確認</p>	<p>実行団体 3 団体ともに、事業対象の中心は高校生以上の若者になっている。</p> <p>ただし、十勝うらほろ楽舎においては、中学性年代向けプログラムを実施しており、子どもたちの変化が報告されている。</p>
<p>対象:子ども達(高校生以上※地元高校がない地域は、中学卒業後、18 歳程度までの若者など)</p> <p>対象地域において、協議会の活動</p>	<p>子ども達の変化</p>	<p>子ども達が、対象地域において、協議会の活動により現在および将来において、そのために具体的に貢献したいと思う</p>	<p>年度ごとに確認</p>	<p>いきたすは、カタリバと探究の事業をしているが、探究の授業では、高校年代の若者たちが、テーマを決めない、制約のない中で、日常の中に課題、論題を見つけ発表している。一部の高校生たちは、札幌という都会においても自分の住む街への意識をみせていた。</p> <p>十勝うらほろ楽舎においては、町での経験・関わりを、自身の人生や、浦幌町または現在通学する町・コミュニティでの関わりに生かそうとしている高校生が見られる。という報告</p>

により現在および将来において、そのために具体的に貢献したいという姿勢の発現。 (帰属意識の芽生え)				がある。 のこたべは、起業塾を実施し、高校生がフリーペーパー制作や、商品企画に関わり、地域の魅力を自ら見つけ出して、地元への意識を醸成している。
対象:子ども達 生まれ育った地域で住み続けたいと思う /地域外に出て行っても生まれ育った地域に戻りたいと思う	子ども達の変化	子ども達が、生まれ育った地域で住み続けたいと思う /地域外に出て行っても生まれ育った地域に戻りたいと思う	2024年 3月	のこたべの研修時報告によると、事業開始前60人中2人しか地元がすきで残りたいという生徒はいなかったが、現在は全員が考え方を変えた。 この事業を通じて、最初に変化するの、それまで敢えて考えてこなかったであろう地元への意識の高まりと考えられ、活動を通じて、地元への関わりを考えるようになるという道筋が想定される。
対象:協議会 当該事業において形成される協議会が地域で必要とされている。 協議会に参加するメリットが理解されている。	協議会構成員が、活動に参加することによるプラスの変化が起きているか	協議会構成員が、協議会に参加するメリットを感じ、地域で広がっている状態	2024年 3月	まだ協議会参加は少ないので、参加者がメリットを感じているかを述べるのは難しい。

<p>対象:協議会 当該事業において形成される協議会が、地域外に出た子ども達がUターンしたときに頼れる存在になっている。</p>	<p>・多種多様なコミュニティの情報を持っているか ・Uターンしたときに様々な仕事を提供できるか(細かいコミュニティの仕事を持っている)</p>	<p>・多種多様なコミュニティの情報を持っているか ・Uターンしたときに(もしくはUターンする前に)様々な(細かい)コミュニティの仕事を提供できるか</p>	<p>2024年 3月</p>	<p>・3団体それぞれが、形成する協議会について考えはじめ、イメージを持ち始めた段階である。 ・のこたべは、七飯町の活動に札幌の大学生が関わるなど地域間連携の形が生まれている。 ・十勝うらほろ楽舎は、従来地域ぐるみで小中学年代の地元意識を高める取り組み(うらほろスタイル)をしてきたが、本事業により、高校年代の若者の意識調査を行い、町外者と町内在住者のコミュニティをつくることを試みている。「うらほろスタイル」を経験した町外在住者がいることから、効果的なアプローチが生まれる期待がある。 ・いきたすは、道立高校の探究事業の刷新や、子どもの主体性を引き出す「カタリバ」の実施を目指した事業で他の2団体と異なる。カタリバや本事業の探究を経験した若者は、主体性を高めていることは期待できるので、それらの若者が集えるコミュニティづくり、またカタリバ運営に参加する大学生たちや、運営のOBOGのつながりを活かした、地縁的でないコミュニティが生まれる可能性がある。</p>
<p>対象:協議会 当該事業において形成される協議会が、地域の特性に合わせた仕事づく</p>	<p>協議会としての活動の有無と内容(関係者インタビュー)</p>	<p>協議会として3年次計画に地域の特性に合わせた仕事づくりや既存事業の強化発展が盛り込まれて</p>	<p>2024年 3月</p>	<p>協議会形成途上で、現時点では事業計画はない。</p>

りに取り組み、具体的な計画案を提示していること (地元に戻ってきてもらう、地元で暮らせるための既存産業の強化、発展を含む)		いる		
対象:協議会 当該事業において形成する協議会の活動内容が、他地域において検討ないし導入される。 (波及)	協議会が他地域において検討された事例の有無と内容(関係者インタビュー)	協議会の活動内容が他地域において検討・導入された事例が1つ以上ある	2024年3月	当会21年度事業の3団体との間で、また20年度実行団体との間で相乗効果、波及が生まれる期待がある。

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
実行団体が形成する協議会が、多様な関係者で構成され、協議会として地域で目指しているビ	実行団体が形成する協議会が、多様な関係者で構成さ	年度ごとに確認	22年1月、と9月に行った研修の結果として、各団体が協議会のイメージを具体的に描ける状態となっている。(別添資料参照)

ビジョンを共有できているか	れ、協議会として地域で目指しているビジョンを共有できている状態		
実行団体が形成する協議会が、行政、地域金融機関、農協など、地域の主要な機関とのつながりを持っているかどうか	実行団体が形成する協議会が、行政、地域金融機関、農協など、地域の主要な機関とのつながりをもっている状態	年度ごとに確認	協議会の目的と活動の具体化、明確化を行っている段階であり、地域のどのような機関が参加すれば目的達成に近づくかを検討している。
参加メンバー属性(NPO、行政、事業者、地域住民(地元、地元外))ごとの参加数	行政関係者、事業者、町内会、学校関係者、地元の高校生か中学生、他地域の事業者のうち2つ以上のグループを含む	2024年3月	想定される協議会参加メンバーが多様な属性である必要はあると考えるが、申請当時の左記の指標が妥当かどうかは検討したい。現状では、のこたべと十勝うらほろ楽舎の2団体は多様な属性の関係者が関わっている。いきたすについては、市町村を越えた教育関係者のつながりや、関わっている町村(標茶町や福島町)において協議会を形成する可能性があるが、当初こちらが想定した構成になることは期待できる。
本事業の終了時に、実行団体が当該事業の次年度または3年間の事業計画が作成できている。(関係者インタビュー)	実行団体のうち2団体以上が、事業終了時に、明文化された事業計画書を有している。	2024年3月	中間評価時に実行3団体へのインタビューを行った(別添資料参照)。各POが組織診断もしており、団体ごとの事業計画づくりを支援すれば達成が期待できる。

本事業を通して、実行団体の組織基盤の強化が為され、自主事業割合が高まるかもしくは高めるための計画を有している。 (関係者インタビュー)	事業終了時に実行団体のうち2団体以上が、組織基盤強化を指向したと述べている事業計画書を作成していること。	2024年3月	同じく上。
本事業を通して、実行団体が自団体および事業の評価についての知識と経験を有し、自力で評価を行いそれを経営に活用することができるようになる。 (関係者インタビュー)	事業終了時、2団体以上が、事業終了後自主的に評価計画を作成することに関して意欲的であること	2024年3月	22年1月、9月の研修を通じてこの事業における評価への関心と理解が高まった(別添資料参照)。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
実行団体による協議会の活動について、資金分配団体が最終的に達成したい目標や中間的な成果は達成されたか	中間的成果として、それぞれの団体が協議会イメージを描けたということで、成果は達成できた。	別添研修時資料参照) 助成期間終了後も実施事業を持続的にするという目的を理解したうえで、どうすればそれを実現できるかを考えていただいた。分配団体としては後半期にその実施をサポートしたい。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>子ども・若者の主体的な取り組みを引き出し、彼らが地域の担い手となるような環境作りを行うこと、環境づくりは、地域の多様な関係者が関わる協議会(連携体制)であることと、いう本事業の根幹については変わらないが、対象が高校生中心であることや、協議会の性質も多様であることから、一部のアウトカム指標とアウトプット指標については、修正が必要だと考える。</p> <p>そのうえで、主体性は引き出されているか、担い手たりうる体制ができるか、その体制づくりのために必要な関係者が集って協議会を構成できるか、については達成できると考えられる。それは、子どもたちを直接対象にした活動が効果的であること、実行団体が本事業の目的を十分に理解していること、この2つの理由による。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	実行団体による協議会の形成および活動は計画どおりに実施されているか	おおむね計画通りと評価する	コロナの影響で、実施が後ろ倒しになった団体があったものの、そのことで計画そのものの大幅な変更を迫られたケースはなかった。1 団体 2 年の事業期間を 3 年に延長した団体があったが、これは成果をしっかりと出したいという前向きな理由によるもので歓迎すべきことだった。

<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>資金分配団体及びプログラム・オフィサーは実行団体への支援を通じて得た情報を十分に活かし学びを改善につなげることができているか。</p>	<p>できている</p>	<p>・月次ペースで PO 会議を実施し、状況は共有している。 ・22 年 5 月にはこのたべの事業設計および計画見直しを担当 PO が中心になって実施した。10 月以降組織基盤強化にも取り組んでいる。またいきたすには 22 年 4 月にこちらから事業計画見直しを提案し、9 月には先方から組織基盤強化について依頼を受けた。 ・PO が担当団体の組織診断を行った。それらの結果も共有している。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>資金分配団体の支援によって、実行団体が、事業運営、評価、資金調達、組織運営などについて「学習する組織」として成長しつつあるか</p>	<p>ややしていると評価する</p>	<p>2 度にわたって実施した評価研修により、評価についての理解が進み、その活用についても団体なりの考えが出てきた。 十勝うらほろ樂舎が、進んで事業期間自体を 3 年に延長する申し出をしてきた。いきたすが組織基盤強化を依頼してくるなど、実行団体に、自らのアイディアの実現のために当ファンドに相談するというケースがあるのは、団体側の主体性が現れていると考えられよい兆候だと考えている。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・当ファンドの運営体制の安定化 :PO が入れ替わるなどの変化があったものの、資金分配団体として 2 年目を迎えて、制度そのものの理解が進んだことが要因として大きかった。
- ・評価研修の設計:評価アドバイザーによる 2 度の研修は、評価の効果をリアリティをもって実行団体に伝えることに貢献した。
- ・コロナ禍の緩和により現地訪問が実現した:いきたすの活動見学、十勝うらほろ樂舎・のこたべへの訪問が実現し、当会の側の理解が進んだ。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

人口減少について、若い層が地元をフィールドに主体性を育む環境で育てば、人口の社会減を短期的には生むかもしれないが、本事業のような体験をした人々の場合は質の点では大きく異なるであろうという仮説を得ることができた。それらの若者が、すべて関係人口になるとは考えないが、その公算は高くなるだろう。十勝うらほろ樂舎の事業において、関連事業を体験した子どもたちの追跡調査ができることにより、地元に着した形で、主体性を育む教育や体験と、関係人口の関係性のある程度述べられればと期待している。



④ 事業計画(資金分配団体)の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	<p>短期アウトカムとアウトプットを現状に合わせて修正するほうがより事業進捗を把握できると思われる。</p> <p>協議会と子ども若者の主体性については、本事業の特徴であり、それらを変更することはない。実行団体にもその理解が浸透してきていると思われる。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

実行団体と当ファンドのアウトカムを調和させること、PO による非資金的支援の結果の蓄積、実行団体の組織の成長と変化の把握に取り組みたい。

引き続き取り組みたいのは、

- ・事業の進捗状況を反映した協議会形成支援、運営支援
- ・組織の状態による非資金的支援

添付資料

○フォルダ「調査・インタビュー」

・北海道 NPO ファンド中間評価実行団体ヒアリング結果 2022 年 10 月～11 月実施(インタビュアー:評価アドバイザー中谷氏)

・北海道 NPO ファンド中間評価_実行団体ヒアリング項目 01 (依頼状を兼ねたもの)

○フォルダ「220916 実行団体評価研修」 実行 3 団体と資金分配団体のワークシート

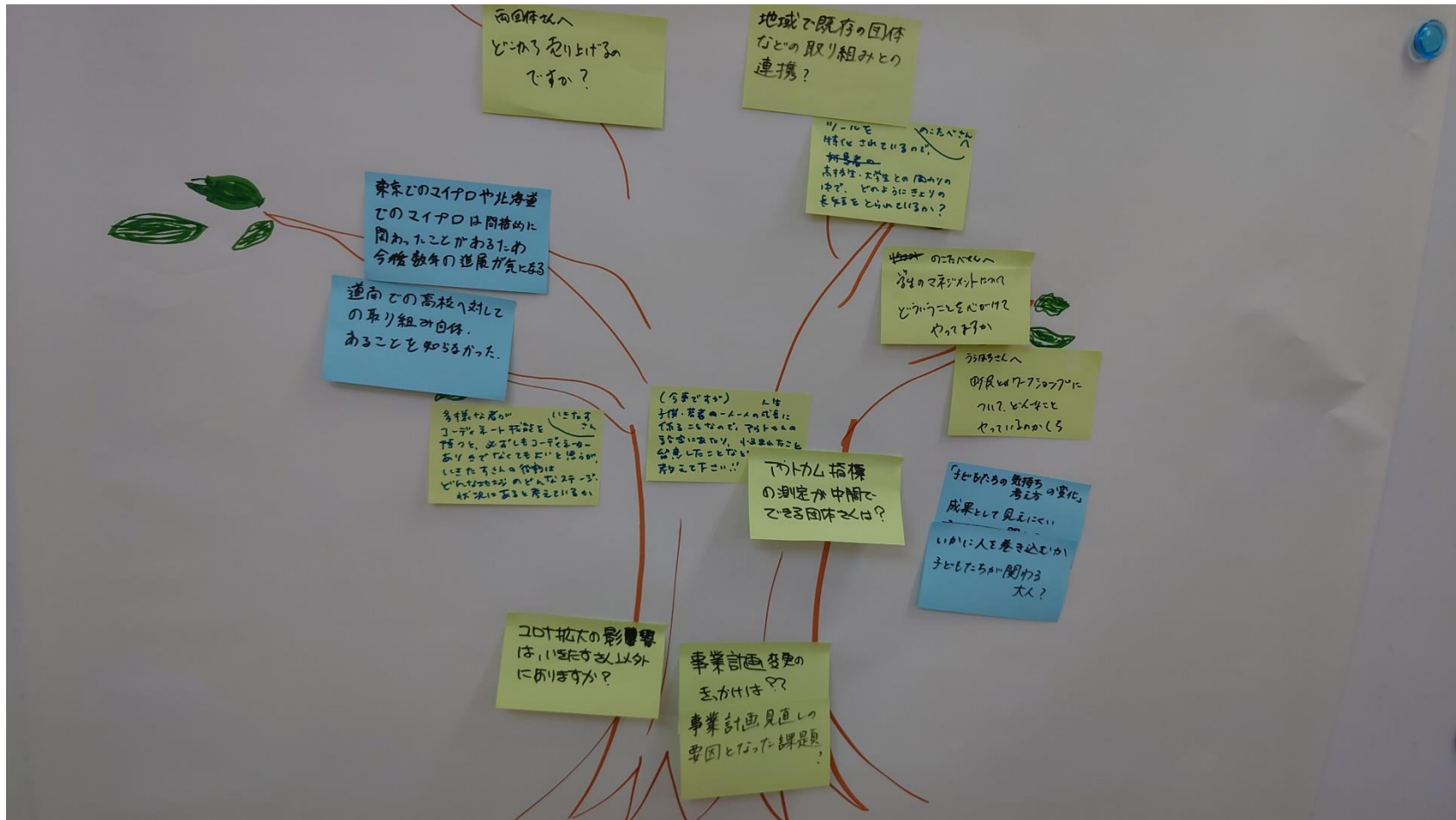
活動の写真(画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度)

2022年8月16日 十勝うらほろ楽舎訪問



2022年9月16日 中間評価研修 @市民活動プラザ星園（オンライン参加1団体）





2022年10月17日 NPO 法人のこたべ訪問

